

19 橋本雅邦《竹鳩之図》

明治十五年（二八八二）  
紙本墨画  
本紙一七四・六×九三・二

江戸狩野の流れをくむ橋本雅邦（一八三五～一九〇八）は、粉本主義に陥った狩野派の教育法を批判的にとらえ、鳥や草花などの写生も怠らなかつた。雅邦は花鳥図をそれほど多くのこしたわけではないが、雅邦の描く花鳥にはそうした実物写生の効果がうかがえる。竹の枝にとまるハトの図様は、伝牧谿のものや狩野派にも作例があるが、胸を大きく張り首をすくめた姿で描かれるのが一つの定型と

なっていた。これはハトが休息し眠る時にとる姿勢であり、対して雅邦はおそらく様々なハトの動作を観察したのだろう、首の伸びたスラッとした体躯で描いている。輪郭線を用いず没骨法と付け立て法を用いながら、そこに滲みやぼかしを加えて的確にハトのフォルムを表現している筆法の巧みさにも注目したい。明治十五年の内国絵画共進会に出品され、宮内省の御買上となった作品。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan